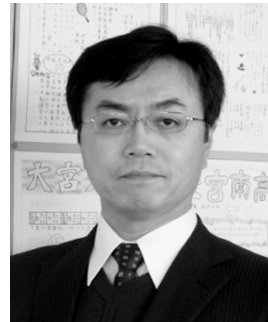


## 特集 「子ども一人ひとりが生き生きと学ぶ教育の推進」

——「さいたま市小・中一貫教育」研究指定校——

### 意欲的に学び活動する 児童生徒を育てる小・中一貫教育

～学習規律の確立と基礎学力の定着・コミュニケーション能力の向上を目指して～



中央区 八王子中学校 教諭 吉澤 有示

## 1 はじめに

平成24・25年度の2年間、「八王子中学校・与野西北小学校・与野本町小学校（八王子中学校区）」は、さいたま市教育委員会より「さいたま市小・中一貫教育」の研究指定を受け、研究主題「意欲的に学び活動する児童生徒を育てる小・中一貫教育」副題を「学習規律の確立と基礎学力の定着・コミュニケーション能力の向上を目指して（八王子中）」「伝え合う力を高めるための指導法の工夫と改善の推進（与野西北小）」「基礎学力・コミュニケーション力の推進（与野本町小）」とし、研究に取り組んできた。

## 2 研究の概要

### （1）さいたま市小・中一貫教育とは

さいたま市小・中一貫教育は、「学力の向上」や「中1ギャップの緩和」のために、義務教育9年間を連続した期間ととらえ、一貫性のある学習指導や生徒指導の推進をめざすことをねらいとしたものである。これまで多くの研究がなされてきた「小・中連携教育」が、小学校教育と中学校教育の接続部分（小学校6年生と中学校1年生）に視点を当てた研究であることに対して、「さいたま市小・中一貫教育」は9年間を一貫して指導していくための研究である。

### （2）めざす児童・生徒像の共有化に向けて

さいたま市小・中一貫教育を推進するにあ

たり、八王子中学校・与野西北小学校・与野本町小学校の3校が、義務教育9年間でどのような児童生徒の育成をめざすのか、めざす児童・生徒像を共有化する必要がある。このため、今年度は、3校のめざす児童・生徒像を計画的な相互交流を通して共有化を図る取り組みを行ってきた。以下にその取り組みについて述べる。

#### ①小・中一貫教育合同研究推進委員会

毎月1回、管理職・研究主任・教務主任等が担当校（ローテーションによる持ち回り）に集まり、めざす子どもの姿、研究の方向性、小・中交流会の在り方、最終的な研究発表会の形態等について検討を進めてきた。

#### ②小・中学校教員合同研修会

夏季休業日に、3校の教員が与野本町公民館を会場に「さいたま市小・中一貫教育」について学習する機会を設定した。指導者として市教育委員会より指導主事を招聘し、教育委員会の小・中一貫教育の目的や方針についての講演会を行った。また、小・中学校の意見交流会を通じて相互の教育活動について理解を深める機会とした。

#### ③小・中学校教員相互の授業参観

##### ○授業参観の日程確保

小・中学校の連携強化のために、相互の授業参観の必要性は十分に認識しているが、小・中学校の授業時間の違いなど、日程調整等の煩雑さにより、実施が難しい現状がある。その中で、今年度より、小・中学校の夏季休業

日の日程が異なることを利用して、8月31日に小学校の教員が中学校の授業参観を行い、生徒の学校生活をじっくり確認してもらった。また、市教研一斉研修の時に、与野西北小学校で算数の授業公開があることを利用して、中学校の教員が小学校の授業を参観し、小学校の丁寧な指導や教室環境整備を学んだ。それぞれ相互理解の大切な機会となった。

#### ○言語活動に視点を当てた3校授業参観

小・中一貫教育においては、9年間を見通して児童生徒の学力を高めていくことが重要である。小学校においては、小学校で学んだ学習内容が、中学校でどのように発展していくのかを見通した指導が必要であり、中学校においては、どのようなことが既習であり、どのような学習を行って力を付けてきているのかを把握しておかねばならない。与野西北小学校、与野本町小学校は、「国語力の向上」「言語活動の充実」をテーマに研究を深めてきている。そこで国語の学びに着目し、行われている研究授業の機会をとらえて、できる限り中学校教員が参観するようにした。また中学校側でも国語科で研究授業を行い、中学校2年生が、2人1組でマイクロディベートワークシートに取り組み、考えを深め、意見文の形態や展開の仕方について学ぶ授業を行った。小学校で学んできた言語活動を土台として、「説得力のある文章を書くために、自分の意見を明確にし『構成の型』（導入－展開－反論－結論）を生かした文章の書き方を学ぶこと」の課題に迫る授業を行った。

### （3）小・中学校の円滑な接続に向けた取組

#### ①中1ギャップ解消に向けた学級編制

平成23年度「さいたま市小・中一貫教育」に係る実態調査（調査校35校）によれば、小学校5・6年児童の48.4%が中学校の学習に不安を感じている。また、保護者が中学校に不安を感じている項目は学習面が最も多く、69.8%が不安を感じている。中1ギャップの要因の一つに、中学校入学後の学習内容を十分に理解できないことがある。このため、本年度、本校は新1年生の学級編制

にあたり、入学予定6年生の一人ひとりの学習状況について学校間で十分に情報共有を行い、より効果的な学習と学力向上に向けた学級編制を行った。

#### ②中1ギャップを解消する児童生徒交流

小学校6年生が、中学校の様子を入学前に体験することは不安解消の手だての一つである。本年度は、八王子中学校の合唱コンクール（彩の国芸術劇場）に与野西北小学校6年生を招き、相互に合唱を披露した。音楽の9年間の系統性を実感する機会となった。また1月末には、新入生授業・部活動見学会を行った。生徒会が中心となって説明し、小学生をグループに分けて、校内を案内した。他にも小学校の土曜チャレンジスクールで、中学生が講師となるなどの機会を作っている。

#### ③小・中一貫教育推進教員

中1ギャップ解消には、小・中学校がお互いの教育内容や児童生徒の現状を把握することが極めて重要である。今年度は、小・中一貫教育推進教員が、与野西北小学校・与野本町小学校・八王子中学校の3校で体育を中心に指導を行っている。推進教員は、授業だけでなく給食や休み時間などに児童と積極的にコミュニケーションを図り、児童から強い信頼を得ることができている。来年度も小・中学校を指導することで、本校に進学する6年生にとっては、非常に心強い教員となると考える。

## 3 成果(○)と課題(●)

○小・中学校の教員が、「9年間」を意識した「めざす児童像・生徒像」を追求し、教育活動に生かす取組を始めた。また互いによりよい点を学び合い、より深い意見交換ができるようになってきた。

○来年度の課題としては、今年度以上の積極的な交流活動を進めるとともに、小・中一貫を意識したカリキュラムに基づく研究授業を実施し、学力向上を果たしていきたいと考えている。